

2015.5.18

「大阪都構想粉碎に感謝」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。本日は5月18日です。昨日行われました大阪都構想の住民投票の結果、幸いなことに1万票余りの僅差でありましたが、反対派が勝ちました。これにて大阪都構想はもう終わりとなり、これ以上先の議論をしなくても良くなったので、本当にほっとしています。今回の大阪都構想、名前は大阪都構想ということですが、政令市である大阪市を5つの特別区に解体することが実態です。正に名前と実態が違うという訳です。その実態の目的が何かというと、二重行政を排除するということが言われてきました。二重行政を排除する結果は、大阪市を解体し、その地域で使う予算を減らすことになります。そのような状況の下で、どうやって大阪市内が活性化するのか、これは有り得ないことです。ですから、その様な出鱈目を初めから聴くこと自体が、私は可笑しいと思うのです。つまり、「大阪を解体して予算を減らします。さあ皆さん良いですか」とこの様な聞き方をすれば、100パーセント誰も賛成しなかったと思うのです。ところが、橋下さんが大阪都構想という名前で「二重行政を排除します」と言うと、これがイメー

ジ的に何か良いものを作る様な感じになり、結果としてこういう僅差になったのです。しかし、何とか大阪市民が、その良識でこうした間違いを食い止めて頂いた事に本当に敬意を表したいと思います。私も連日、この大阪都構想反対のために街頭遊説やこのビデオレターで、何度も何度も訴えてきました。その甲斐があったということで、本当にほっとしています。

さて、その中で気になりますのは、自民党の支持者の4割の方々が賛成の投票をされました。その背景にあるのは恐らく、官邸側が維新の会に改憲を手伝ってもらうために、大阪都構想に一定の理解を示している事が自民党の支持者の方々の得票を増やしたと思うのです。つまり言い換えれば、「橋下さんは改憲をしようとしており安倍さんと同志である、その同志を助けるためには大阪都構想が良いかどうかよりも、改憲をするために維新の会を使おう」という目論見が見え隠れしているのです。そして今回の結果を受けて、その戦略は見直しせざるを得ないという報道がありました。これは当たり前前の話です。もっと言えば、そもそも橋下さんが考えている憲法改正は一体何なのか、我々にも全く分かりません。憲法改正を言う時に私は何度も言ってきましたけれども、今の憲法の問題の本質は何

かと言えば、我々が占領されている間に自分達の国の形を変えられてしまったものを元に戻そうという話です。国柄を取り戻そうという動きが憲法改正運動の原点にあります。けれども、橋下さんが言っている様な改憲は、国柄を取り戻すという話として通じるところがあるでしょうか。全く私にそういう事は見えてこない訳です。むしろ改憲と言っていますが、これも大阪都構想と同じ様に日本の国柄を取り戻すものではなく、橋下さんが考えている改憲は、国柄を破壊するための改憲に近いのではないかとさえ思うのです。ですから、そもそも彼らと組んで改憲をしようということ自体が、滅茶苦茶です。また仮にそれが正しい方向の改憲論争だとしても、そのことによって大阪市が解体されてしまいます。大きな問題の改正のために、大阪市を捨てることとは全く違う話です。本当に大阪のため、近畿のため、国のためになる問題でしたら、私も改憲云々は関係無しに大いに賛同し、賛成すべきと思います。

しかし、その中身が全く出鱈目であり、破壊を目的とするものであるから、私達は反対してきました。この改憲騒動も恐らく橋下さんなどと組むと、そういう国柄を破壊する方向になってしまうのは必定だと思います。橋下さんは政界を引退すると仰っていますから、

今回の大阪都構想の否決を受けて早く引退をし、一弁護士として活躍をして頂けたら良いと思います。しかし、尚も私が警戒をしているのは、この方は確かに市長選挙には出ないかもしれませんが、ですが、その代わりに国政選挙に出るということは、十二分に考えられるということです。何故ならばこの方が今まで言ってきて、まともに実行した事は殆ど一つも無かったと言っているくらい、前言を自分の都合の良い様に、その時その時の状況で取り消してきたのが事実だからです。

何れに致しても、今回の大阪都構想は阻止が出来ましたが、我々がこれからしなければならないのは、正に国柄を取り戻すための運動です。橋下さんを保守ではないかと仰っている方がいますが、全く似て非なるものであります。この方は、国柄ということを恐らく考えたことが無いのだと思います。だからこそ、大阪を簡単に破壊することや憲法改正も当然だという話になりました。何を守るために変えなければならないのかという肝心なところを是非、皆様方と一緒に議論をしていかなければならないと思っています。

本日は、大阪都構想を阻止できたことに対して、御礼のビデオメッセージです。皆様方のご支援頂き、本当にありがとうございました。

た。